

学校教育目標
 人格の形成をめざし、国家及び社会の形成者としての必要な資質を養うとともに、工業に必要な基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けさせることを目標とする

中期経営目標	令和4年度重点目標	評価計画 達成のための方策	自己評価				学校関係者評価		改善策
			生徒	保護者	教職員	総合	コメント	評価	
向かっていく学力の育成	基礎学力の向上	生徒の理解度に合わせ、補習等を実施しながら学力向上を支援する	3.4	3.3	3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も定期試験前の放課後学習を継続して行った。学習習慣の定着を目指して実施しているが、家庭学習の習慣へのつながりは薄い。 ・定期試験前における家庭学習調査では、学習時間を確保している様子が見られるが、十分に成績に反映されていないように感じる。 ・3年生の1学期は進路決定に向け、学習に取り組む生徒が多かった。昨年度に比べ全体的に成績不振者が少なかった。 ・1人1台端末を活用し、課題の配布などから家庭学習の取り組みに繋げる必要がある。 ・教科により支援が必要な生徒には、担当教員に補習実施の依頼をした。また、感染症による欠席者には、家庭学習に取り組むよう各教科の課題を配布した。今後スムーズに補習を実施するために、支援の必要な生徒の情報を、各教科担当と担任が共有しておく必要がある。また、課題をスムーズに配布、回収できるように、クラスルームなどを普段から利用する必要がある。 ・定期試験、一斉テストなどに向けた課題への取り組みや提出状況については概ね良好であった。一方で自力で理解を深めることの難しい生徒への支援の仕方について、放課後学習のあり方も含め、再考の余地があるように感じる。今年度も感染症による学級閉鎖や自宅待機しなければならない生徒があったが、それらに対する手段が十分ではなかった。Classroomの円滑な活用の仕方について考えなければならない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の様子や国家資格試験など生徒たちのがんばりを感じる。基礎基本が十分身につけていることが推察される。 ・各々の学力ペース等に応じた指導に端末を活用できたら良いかと思います。 ・家庭学習について保護者が2.7と低い評価である。端末を利用し、家庭学習を増やしていきたい。 ・今年度の1年生から一人一台端末の活用がスタートし、今後に期待できる学習環境を整えている。 ・リモート学習にも展開できれば、これからの社会で役に立つと思う。 ・生徒の学習に対する意識の向上は、今後大きな課題であると思えます。学習習慣の定着に向け、今後も創意工夫した取組をお願いします。
		家庭学習習慣や定期試験前学習習慣の定着を進める	2.9	2.7	3.3				
	ものづくり教育の推進	資格指導・検定試験に向けての指導・支援を行う	3.5	3.4	3.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究はそれぞれの発表がすばらしい、実績をさらに積み上げられることを期待するとともに、広く情報発信されることを望む。 ・他科の活動を知る機会となり良かったです。高校選択の参考になるよう中学生にも「工業」を知ってもらえればと思います。 ・市民会館での課題研究発表会、プレゼン力向上に役立ってとても良い取組と感じました。 ・コロナ禍で多くの制限がある中で、苦慮されたと思いますが、その中でも生徒の主体性を育む取組が実施されていると思えます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ(2年)、企業見学(全学年)を例年どおり実施する。 ・いずも産業未来博に継続して取り組んでいく。より多くの参加者に木工体験をしてもらうため、製作キットの数を増やします。 ・施設、溶接など実技の伴う資格についても充実を図る。 ・ものづくりコンテストへの取り組みを継続して実施する。 ・今後も生徒の主体性を育む取組を実施し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン力を向上させたい。
		資格・検定試験に意欲的に取り組んでいる	3.4	3.1					
インターンシップや企業見学事業を充実させ進路意識を育成する		3.6	3.5	3.7					
主体的・対話的で深い学びの推進	教材や補助プリント、ICT機器を利用し、工夫した授業を行う	3.4	3.1	3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人1台端末の導入に伴い、ICTを活用した授業づくりの取り組みが始まり、教科によっては活用の機会が増えたと感じた。来年度はさらに多くの生徒が使用するため、さらに活用の工夫が求められる。リモート授業も対応できるようにしておく必要がある。 ・生徒による授業評価」を各教科担当で実施した。アンケートを基に来年度の改善に努める必要がある。 ・研修以外において公開授業が出来なかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を今後さらに活用してもらいたいと思います。特にトラブルがなかったと伺い、安心しました。 ・更なる端末の有効利用が必要と感じる。 ・ICTを利用した授業の更なる拡充を期待しています。 	
	公開授業や生徒の授業アンケートを活用し、授業改善に努める	3.2	3.0	3.1					
広がっていく社会力の育成	個に応じた進路指導の徹底	企業・進学説明会等の各種イベントを用いて、進路選択・決定を支援する	3.4	3.3	3.4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明会(全学年5月)、進学説明会(3年7月)を実施した。また、1、2年進路説明会(3月)(2年生は就職・進学別)を計画している。各行事により、早期の進路選択を促している。 ・3年進学補習は数学15名、英語18名、国語17名が受講。結果として、国公立大学2名、私立大学20名、短期大学2名、各種学校26名が合格した。また、公務員模試は、3年生で6回実施し、県警察官2名、県職員2名、自衛官1名が合格した。就職では自営も含め、95名が内定した。 ・(1年学年部)各学期の面談など、生徒個人個人と向き合う時間を作ることができた。学校生活だけでなく、進路に関する面談を今後は増やしていきたい。 ・(2年学年部)インターンシップ、企業見学などの進路選択のために重要となる行事を実施したり、個人面談を通して進路選択についての話し合いをした。 ・(3年学年部)ほぼ全ての生徒が、高校卒業後の就職・進学先が決まっている、今後の目標を持っているという状態で卒業を迎えることができた。ただ、早い段階で目標設定ができている生徒は多くなく、進路意識を高めるための指導や行事の活用が十分ではなかったといえる。 ・進路希望や興味・関心によってコースを選択し進路実現に向け学習に取り組めるようになっている。専門コースは建築科のみ選択できる状況である。 ・教科によっては、チームティーチングやZクラスなど各生徒に対応した支援で、生徒の学習意欲を高め良い成果を挙げることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても生徒たちの将来をきめ細やかに考え、対応しておられる教職員のみなさんに敬意を表します。 ・教職員評価よりも生徒評価の方が高いことに注目しています。 ・幅広い進路選択ができる取組が実施されていると思えます。今後もより多くのニーズが出てくることも考えられますので、柔軟な対応をお願いします。
		進学・公務員補習、就職面接指導等個々の生徒への支援を行う	3.5	3.3	3.4				
		習熟度別(Z)クラスとコース制で、生徒個々の意欲や学力を高める支援を行う	3.4	3.3	3.2				
	体験学習の推進	地域におけるボランティア活動や集団活動で社会貢献を進める	3.4	3.2	2.9	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア予算を設け、様々な活動を下支えする態勢を整えているので、さらなる周知を図って活動の広がりをねらいたい。 ・中学生の体験入学、オープンスクールでは生徒が各体験コースの講師、補助員をつとめ、コミュニケーション能力の向上につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で課題研究発表会が実施されたのは非常に良かった。 ・地域との交流を大切にしておられ素晴らしいことだと思いました。 ・コロナ禍で一番難しいところであると思いますが、コミュニケーション力向上には欠かせないことであるので、継続してほしいです。 ・生徒が主体的に取り組むことで、大きな成長につながっていると思えます。
実習、課題研究、卒業設計等での探究力・プレゼン力を育成する		3.5	3.3	3.4					
学芸祭、球技大会、委員会活動を通して生徒の自主的な活動を支援する		3.5	3.5	3.4					
生徒支援の充実	スクールカウンセラーや外部専門機関と連携して支援を進める	3.4	3.3	3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒について、SC、I-Room等につなぐなど校内外と連携しながら支援することができた。 ・毎日の健康観察では、1年生は端末から入力できるようになった。来年度からは1、2年生で端末を活用する。該当学年では生徒朝礼での配付・回収の手間を省くことができた。 ・保健委員会による毎日の昼の放送により、換気や朝食を促した。昼休み以外の時間の飲食についても注意喚起が必要である。 ・(1年学年部)タブレットの活用出来る教材を多く使うことが出来た。ホームルームなど積極的に活用出来た。 ・(2年学年部)学年部会を定期的に開催し、学年の生徒の情報を共有することで、生徒指導に活かした。 ・(3年学年部)学級閉鎖が2回起こったクラスがあった。学年部として、マスク着用や朝食などの行動についての指導や感染症対策の意識を高める指導が十分ではなかったといえる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒さんへの引き続きのきめ細やかな対応を期待する。 ・2学期からの保健室利用が極端に増えている。問題を整理し、細かな対応が必要と感じる。 ・健康観察の端末入力は、情性にないか心配の面もある。 	
	健康観察、保健室指導、保健だより等で生徒の健康意識を育成している	3.6	3.3	3.5					
	教員間の情報共有や連携を図り、特別支援教育を進める			3.4					
高まっていく人間力の育成	基本的な生活習慣の確立	遅刻・頭髪・服装の指導を日常的・定期的に行う	3.6	3.7	3.2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻頭髪服装及び登下校のマナー指導については、一定の効果があり、落ち着いた学校生活につながっている。頭髪・服装指導では、大半の生徒がルールを守っているが、日々の生活の中での継続指導が必要である。また、現状に合わせた校則の見直しを検討中である。 ・自転車点検、毎月の鍵かけ運動と併せて安全意識は育成できた。 ・ルールを守り生活することが出来た。服装の指導などは、学年会としてもっと統一した指導がもってこい良かった。 ・頭髪・服装指導では、一部の生徒が不合格となり、普段からの規則に沿った継続的な指導が必要であるが、時代合うような規則の見直しも必要である。 ・大半の生徒は規律正しい生活を送っていたが、特に2学期以降、一部で時間にルーズであったり、服装や頭髪に乱れがあったりする生徒もあつた。個別に指導を繰り返すことで改善されたものも多かったが、そうならなかったこともあつた。進路決定したからといってルーズになるのではなく、より一層の緊張感を持たせるための方法を考える必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の中で、挨拶、服装、頭髪指導の目的を説明し、基本的な生活習慣の確立を促す。 ・タブレットについての問題が今後出てくると思う。学校としての使い方や注意点の検討が必要であると感じる。 ・校則も時代に合った見直しが必要と思う。 ・駅で、登下校の様子を見ているが、目立って悪い生徒はなく、他人に迷惑をかける事象もない。
		挨拶指導や接遇指導を日常的・定期的に行う	3.3	3.3	3.2				
		自転車点検、街頭指導、実習指導、避難訓練等で安全意識を育成している	3.5	3.4	3.4				
	部活動の推進	綿密な計画を立て、生徒が充実感・達成感を感じるような活動にする	3.5	3.3	3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動で自己実現を図る生徒も多くなることと思う。教職員の皆様には多忙な中でのご指導となるが、よろしくお願ひしたい。 ・集中して取り組める環境が整備されていると思えます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等を活用し、日々の活動や大会結果などを周知する。
部活動を通して人と協調することや規範意識を高める			3.4						
人権教育の推進	各種講演会等を計画的に実施し、道徳教育を進め、人権意識の育成を行う	3.4	3.1	3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学びの機会を設けておられ、熱心な取組であると感じる。 ・人権教育は今後ますます重要になってきます。継続した取組をお願いします。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の生徒の実態や現在起こっている人権課題を勘案したHR活動を心がける。 ・教職員研修では、様々な分野について学ぶよう配慮する。 ・タブレットについての問題が今後出てくると思う。学校としての使い方や注意点の検討が必要であると感じる。 ・タブレット端末を校内で使用している状況で、ホームルーム活動などで年度の早い時期に情報リテラシーと密めた指導を行う必要があると思われる。入学時だけでなく、定期的に行う必要がある。 ・生徒にとっての身近な事例をあげ、普段から他者を思いやれるような指導を心がけていく。 	
	ホームルーム活動や通信の発行で、啓発活動を行う	3.4	3.1	3.3					
学校生活の充実	出雲工業高校に入学して良かったと思っている	3.5	3.7		A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な人間力、工業に入って良かったと胸を張って卒業し進学や就職の次のステップへ向かってもらいたいです。 			
出エイベーションの展開	出エイベーションの推進	地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進する			3.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部との関わり連携は大切ですので、今後も継続して欲しいです。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用したものづくり、地域貢献に向けたものづくりの推進に努める。 ・今後も地域と連携した活動を継続して実施していきたい。 ・今後も地域と連携を取りながら問題解決型学習や出前授業に取り組んでいきたい。
	学習評価方法の構築	新教育課程を踏まえた評価方法を構築する			3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程については決定している。代替科目について、内容を改めて確認しておかなければならない。 ・観点別評価が実施され、ルーブリック表を各教科で作成する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間実施した結果を再度教科内で検討を続け、情報共有を図る。
	入学者数確保の取組み	一日体験入学、オープンスクールや中学生保護者への説明活動を充実させている			3.5	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学・オープンスクールでは、中学生の進路選択に多大な影響を及ぼす重要な機会であるため、受け入れ人数に制限があったが、各科で工夫して受け入れ枠を広げていただいた。 ・ホームページを活用した広報活動において、実習内容なども積極的に取り上げ充実させる。また、マスメディアの活用も積極的に行う必要がある。 ・専門高校合同説明会が中止となったが、来年度は実施され、本校の様子のアピールに繋げたい。 ・体験入学、オープンスクールでは建築科の取組や進路先の説明に加え、女子の活躍の場が工業にあることをアピールできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに興味をもっている子どもたちに工業高校の魅力が上手く伝わればきっと入学希望者は増えていくように思っている。 ・広く工業の良さをアピールしてください。 ・出雲工業高校の魅力発信を積極的に実施しておられると思えます。 ・体験入学など保護者の参加や見学を実施し、本校の教育活動の理解に繋げていく。 ・ホームページを活用し、工業高校の取り組み状況の情報発信を増やしていく。 ・体験入学、オープンスクールを通して専門教科の内容と多様な就職先を紹介し、科の魅力アピールする。 ・コンソーシアム、出前授業などで積極的に魅力をアピールする。

自己評価の区分 A:よくできている(3.2以上～4.0未満) B:概ねできている(2.6以上～3.2未満) C:やや不十分である(2.0以上～2.6未満) D:不十分である(1.0以上～2.0未満)

強調文字は昨年度より評価の上がったもの
 下線文字は昨年度より評価の下がったもの